

金属リングによる陰茎絞扼症の1例

富山医科薬科大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 片山 喬教授)

奥村 昌央, 釣谷 晋二, 村石 康博, 酒本 譲

風間 泰蔵, 布施 秀樹, 片山 喬

STRANGULATION OF THE PENIS BY A METALLIC RING

Akiou Okumura, Shinji Tsuritani, Yasuhiro Muraishi,

Mamoru Sakamoto, Taizo Kazama, Hideki Fuse

and Takashi Katayama

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University

An 81-year-old male patient visited our hospital on November 13, 1992 for the treatment of penile edema that had been caused by a metallic ring which he placed for fun 4 days prior to the visit. He had placed the metallic ring on the base of the penis and subsequent penile edema made it impossible to remove the ring. He had no problem with urination. The ring was successfully removed with a metal-cutting tool. But 3 days later, infected penile ulceration occurred at the base of the penis and the necrotic tissue was resected. It took 25 days for the wound to heal. It is stressed that penile stragulation is a serious injury and prompt removal is necessary.

(Acta Urol. Jpn. 39: 1179-1181, 1993)

Key words: Strangulation, Penis, Metallic ring

緒 言

陰茎絞扼症は比較的稀な疾患であるが、今回われわれは、金属リングによる陰茎絞扼症の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 81歳, 男性

主訴: 陰茎の腫脹, 疼痛

既往歴: 72歳, 脳梗塞

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1992年11月9日に悪戯にて杖についている金属リングを陰茎にはめたところ陰茎の腫脹をきたし抜去困難となり疼痛も生じたため同年11月13日当科受診した。

来院時現症: 胸部, 腹部には異常を認めなかった。

陰茎はリングにより根部で絞扼されており, 絞扼部より末梢部の陰茎皮膚は, 著明な浮腫をきたしていた (Fig. 1)。前立腺は, 小鶏卵大で弾性硬で圧痛を認めず, 精巣, 精巣上体にも異常を認めなかった。

来院時検査所見; 一般検血, 生化学では, WBC が $10,810/\text{mm}^3$, また CRP が 4.2 mg/dl と軽度高値を

示した以外とくに異常は認めなかった。

治療経過; 手動的にリングの除去は不可能であったため, 陰茎皮膚を局所麻酔し鋼製切断用具のニッパにて金属リングを切断除去した。金属リングは, 直径が 3 cm で幅が 8 mm であった (Fig. 2)。陰茎の腫脹が著明なためそのまま入院した。翌日陰茎の腫脹は改善したが, 3日目より絞扼部にびらんが生じ (Fig. 3), 5日目に壊死を伴った潰瘍部の切除および縫合を行った。縫合後7日目に創が離開しその創の膿より MRSA が検出されたためミノマイシンの点滴とイソジン消毒を行った。排尿障害はなく, 逆行性尿道造影では前立腺部尿道の圧排を認めたが, 絞扼物による前部尿道の狭窄は認めなかった。創が治癒するのに25日間を要した。

考 察

陰茎絞扼症は, 陰茎を異物により圧迫し絞扼部より末梢は循環障害により浮腫, 腫脹をきたし, 高度な場合には壊死や尿道瘻が, 生じる比較的稀な疾患である¹⁾。

本邦では, 1988年に横尾らが60例の集計を行っており²⁾, 1992年には岡田らが72例の集計を行っている³⁾。今回われわれは, 本邦報告74例について臨床的検討を

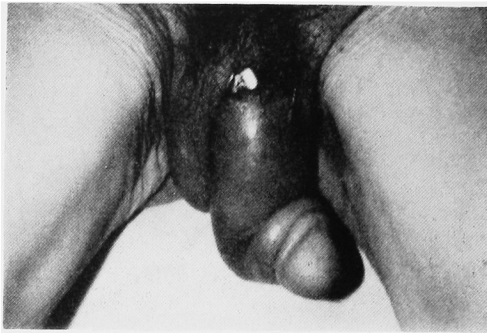


Fig. 1. Penil stangulation of the penis by a metallic ring.

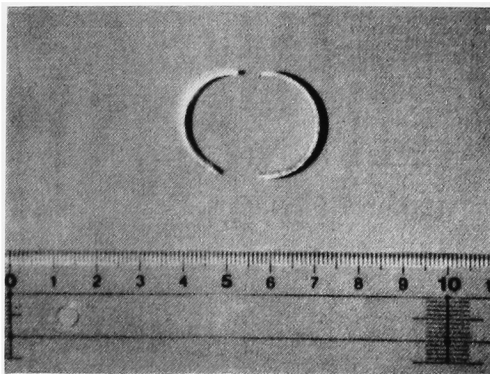


Fig. 2. Metallic ring.

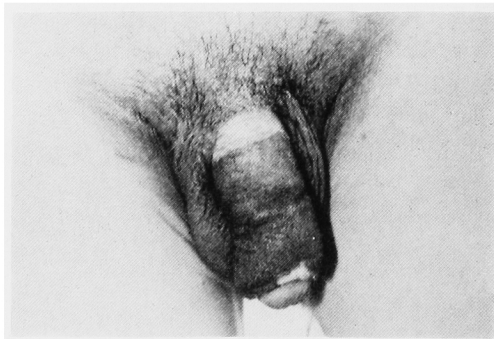


Fig. 3. Penile ulceration.

試みた。

年齢は、5歳から83歳におよんでおり、10歳台から20歳台の青年層に最も多かった。

絞扼物は硬性絞扼物と軟性絞扼物に分けられるが、硬性絞扼物は42例であり、そのうちわけは金属輪が25例と最も多くついで指輪が4例、網鉄管が4例などであった。一方軟性絞扼物は28例で、そのうちわけは輪ゴムが17例と最も多く、ついで糸が6例、毛髪が2例などであった。また絞扼物の不明なものは4例であ

た。

絞扼の動機では、悪戯が32例、ついで精力増強目的が10例、包茎や夜尿症などの治療目的が9例、自慰行為が6例などであった。動機は、年齢層により特徴があり、小児期では夜尿防止、青壮年期では悪戯や自慰、勃起の持続、老年期では悪戯、勃起の増強を目的とすることが多かった。

治療は、絞扼物を除去することであるが硬性絞扼物の場合、切除が困難ことが多い。一般に硬性絞扼物の除去は全身麻酔下で金属切除器具が有効とされている⁴⁾。本邦においては、切除手段は歯科用器具が17例と最も多く、ついで電気グラインダーが5例、鑷が4例、用手除去が3例などとなっていた。自験例では、網製切断用具であるニッパーを使用し除去したが、困難な場合には歯科用エアータービンが最も有効と思われた。

陰茎絞扼症による合併症は、74例中23例に認めており、軟性絞扼物では、28例中16例(57.1%)に認め、そのうちわけは尿道瘻が9例と最も多く、ついで陰茎壊死が4例、亀頭壊死が2例、包皮壊死が1例であった。一方硬性絞扼物では、42例中7例(16.7%)に認めており、そのうちわけは包皮壊死が4例で、ついで尿道瘻が2例、陰茎壊死が1例であった。軟性絞扼物に合併症が多い理由としては、軟性絞扼物は硬性絞扼物に比べ陰茎組織内に容易に埋没し絞扼物の発見を困難にすることや絞扼面積が狭く強い圧力が長時間加わりやすいためと考えられる。そのため外見上絞扼物がわからなくても絞扼症が疑われる場合には、慎重に絞扼部の皮膚を切開し絞扼物をさがすべきであるとされる⁵⁾。合併症として尿道瘻が多い理由としては、尿道は陰茎腹側に近く、尿道海綿体は薄いのに対し、陰茎海綿体は中心に動脈を有し厚い白膜で被われているためと考えられる⁶⁾。また重篤な合併症として亀頭壊死や陰茎壊死があるが、血流状態が悪い場合には解除後ドップラー検査や血流シンチグラムが必要となる⁷⁾。自験例の場合、金属リングの径が3 cmと小さかったものの血流が保たれていたため陰茎壊死をきたさず皮膚の潰瘍形成のみ生じたと考えられた。

当然のことながら陰茎絞扼症では、絞扼物の早期除去が最も重要である。

結 語

金属リングによる陰茎絞扼症の1例を経験し、若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は、第359回日本泌尿器科学会北陸地方会において報告した。

文 献

- 1) 増田富士男: 陰茎絞扼症, 新臨床泌尿器科全書, 市川 篤二, 落合 京一郎, 高安久雄編, 第1版, 6B巻, 160-161, 金原出版, 東京, 1982
- 2) 横尾大輔, 瀬田仁一: 陰茎絞扼症の1例. 西日泌尿 50: 651-654, 1988
- 3) 岡田栄子, 篠原 敏, 石内裕人, ほか: 陰茎絞扼症の2例. 西日泌尿 54: 1770-1773, 1992
- 4) Peters PC and Sagalowsky AI: Injuries to the Penis In Campbell's Urology, Edited by Walsh PG, Retik AB, Stamey TA, et al.: 6th ed, vol 3, pp. 2589-2590, WB Saunders Company, Philadelphia, 1992
- 5) Haddad FS: Penile strangulation by human hair. Urol Int 37: 375-388, 1982
- 6) 佐藤達夫: 泌尿器手術に必要な局所解剖20, 陰茎(2). 臨泌 44: 125-134, 1990
- 7) Bhat AL, Kumar A, Mathur SC, et al.. Penile stragulation. Br J Urol 68: 618-621, 1991

(Received on May 10, 1993)
(Accepted on July 19, 1993)